

第50回 鳥取市文化賞特別功績賞受賞者

たにぐち しん
谷口 伸〔音楽〕



【受賞理由】

声楽家（バリトン）、オペラ歌手であり、主にドイツで活動を行っている。音楽専攻ではない大学の文学部に在席し、大学のグリークラブで合唱をしながら声楽の道へと進み、国内では日本音楽コンクール入選を始めとする主要コンクールに入選、海外でも国際コンクールでの総合優勝など、数々の受賞歴をもつ。

1998年からウィーン国立音楽大学で研鑽を積み、2002年最優秀で卒業。その後ドイツの市立歌劇場と専属契約を交わし、今は州立劇場のオペラ歌手として活躍中である。その活動内容は新聞・雑誌紙上で常に高い評価を得ている。

その一方、数年単位で故郷の鳥取市に帰郷し、コンサート（鳥取県内で活躍するオペラ歌手たち）を行っており、2025年には、鳥取市民会館で「オペラーズ・コンサート WITH 谷口伸」に出演し演奏。鳥取市にクラシック、特にオペラの文化を伝え続けている。

【経歴】

鳥取東高等学校、慶應義塾大学文学部卒。大学在学中、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団のバリトンパートリーダーとして活躍。毎日学生音楽コンクール大学・一般の部東京大会2位。卒業後、数年のサラリーマン生活を経て、声楽家を志す。

平成10年	ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科入学
平成14年	ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を最優秀で卒業
平成17年	ドイツ・ゲルリッツ市立劇場と専属契約
平成22年	ドイツ・ツヴィッカウ市立劇場と専属契約
平成30年	ドイツ・マイニンゲン宮廷劇場と専属契約

【受賞歴】

平成6年～	シュューベルト国際歌曲コンクール 第2位
	NHK 新人洋楽オーディション 合格
	イタリア声楽コンクールソミラノ部門 金賞
	日本声楽コンクール 第3位
	日本音楽コンクール声楽部門 入選2回
平成12年	国際シューマンコンクール 歌曲部門 第3位
平成14年	ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科 最優秀で卒業
	愛知・長久手オペラ声楽コンクール 第2位
平成16年	デビュー・イン・メラン国際声楽コンクール 総合優勝

【主な活動】

アルマヴィーヴァ伯爵（モーツァルト「フィガロの結婚」）、フィガロ（ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」）、リゴレット（ヴェルディ「リゴレット」）、スカルピア（プッチーニ「トスカ」）等オペラの主要な役はもとより、オペレッタ、ミュージカルまで幅広いレパートリーを持ち、これまでの全ての役において、新聞・雑誌紙上で常に高い評価を得る。

また2011－2012シーズン、A.ジーガート演出による「セヴィリアの理髪師」で演じたフィガロが、ドイツ・オペラ専門誌“Opernwelt”の「50人の批評家によるシーズン評」で最も良かった歌手の一人として選出・評価される等、確実にドイツでの基盤を広げている。

また、コンサート歌手としても300を超える歌曲のレパートリーを持ち、バッハ「クリスマスオラトリオ」、ブラームス「ドイツレクイエム」等、宗教曲のソリストとしても精力的に活動している。

声楽を門屋留樹、畑中良輔、V.ミラキアン、リート解釈をW.ムーア、H.ホッター、D.F=ディースカウ、O.ベアー各氏に師事。

平成17年【ゲルリッツ市立劇場専属契約】

ヴェルディ「リゴレット」のタイトルロール

リヒャルト・シュトラウス「サロメ」ヨカナン役

平成22年【プラウエン＝ツヴィッカウ市立劇場専属契約】

モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロール

ヴェルディ「仮面舞踏会」レナート役

ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」フィガロ役

平成23年 大阪交響楽団第153回定期演奏会で「さすらう若人の歌」演唱

平成28年 福岡ソフトバンクホークスの試合前の国歌独唱

大阪交響楽団第203回定期演奏会で「5つの初期の歌」、

「リュッケルトの詩による5つの歌曲」演唱

平成30年【マイニンゲン宮廷劇場専属契約】

ビゼー「カルメン」エスカミーリョ役

オトマール・シェック「デュランデ城」レナルド・デュボア役

プッチーニ「トスカ」スカルピア役

令和 2年 NHK 交響楽団「第九」バリトンソロ

令和 3年 イプセン原作によるオペラ「幽霊」世界初演に参加

【活動に対する思い】

おぎゃあと産まれた赤ん坊が成人するのに日本では20年、それと同じだけドイツで歌ってきましたが、未だに歌手として成人したという実感はありません。舞台に立って歌い演じる事ができるのは、…あと10年少々ですかね。恐らく生涯満足することはないと思います。でも飽きることもないと思います。そこそ自分で納得の行く声が出なくなるその日まで、歌手でいられたらいいなあと、ぼんやり考えています。